

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

時 間

平成28年6月第1週放送

古代ギリシャの時間の概念^{がいねん}に、“クロノス”と“カイロス”というものがあります。

“クロノス”というのは、時計ではかることのできる時間です。何時何分であるとか、1時間 2時間というような、私たちが共有することができ、且つ規則正しく流れる時間のことです。

一方、“カイロス”は、時計ではかることのできない時間です。すなわち私たち一人一人が心で感じる時間、時計が刻む“クロノス”を超えた時間です。

例えば、深い感動を覚^{おぼ}えた時に、その時間がとても長く感じられたり、長い時間が経っているはずなのに、それが一瞬のように感じられたりします。

それが、“カイロス”の時間です。

「時の流れ」という言葉は、川の流れを連想させる表現です。時間を川の流れに喩^{たと}えてみます。

私たちが岸^{きしべ}辺から川を見る時、川の流れは、はっきりとわかります。川を外から客観的に見ているからです。これは“クロノス”の時間ということになるでしょう。時間を客観的にとらえるのが、“クロノス”だからです。

次に、岸^{きしべ}辺にいる私たちが、そこから舟などで川の流れに乗るとどうでしょうか。

川の流れに乗るということは、川の流れと一体になることです。今の川の流れを自分の身と心^{み ころ}で感じるということです。これは、“カイロス”の時間といえるでしょう。主体的に時間をとらえ、感じるのが、“カイロス”だからです。

仏教では、時に川の流れと一体になることを大切にします。岸から川を眺^{なが}めると、過去にとらわれたり、未来に不安を感じる結果になることがあります。

したがって私たちは、川の流れを感じ続けながら生きることが必要なのではないのでしょうか。言うなれば、川の流れそのものとして生きるということです。

川を行く「自分」という舟の上は、常に「今^{いま}」です。岸^{きしべ}辺から川を見るばかりではなく、舟に乗って、川に出ましょう。

その時、私たちは「今」を生きているのです。

— 終 —